

KAWAI  
CULTURAL  
MUSEUM

# 資料館だより

川井村北上山地民俗資料館

1997年10月20日発行

No.3

下閉伊郡川井村大字川井2-187-1  
☎0193-76-2111 (内線83)



## 岩手大学博物館学講座の 館務実習が行われました

### 村青年と交流も！

去る7月25～27日の3日間、岩手大学の館務実習が北上山地民俗資料館で行われ、博物館等の学芸員の資格取得を目指す22名の学生たちが、資料洗いやカード作成、聞き取り調査などの体験学習を行いました。

また、26日の夜にはタイマグラに講師の名久井芳枝先生（当館名誉館長）や学生たちを招き、村の青年たちが主催する“明日の夢を語るつどい”が開催されました。



# 文化庁の

## 大島文化財調査官が来館

### 民俗資料の国文化財指定に弾み

先般、文化庁の大島文化財調査官が来村し、民俗資料館を視察しました。調査官は、文化財の国指定準備事前調査のため来館したもので、視察後「大変貴重な資料が多く、国指定重要有形民俗文化財として整備保存するに十分な価値がある。特色を生かしたグループピング（資料を）で指定に向けた準備を。」と感想を述べていました。

国の重要有形民俗文化財の指定を受けるには、基本構想、基本計画、実施計画の策定が急務となるほか、事前準備として、「台帳カードの作成」「写真の撮影」「実測図の作成」などが必要となります。指定を受けるには、少なくとも二、〇〇点以上の資料整備が不可欠となりますが、調査官の来館は、国指定に向けて大きな弾みであったこととなります。

## 『川井村民俗誌』

(仮称)の編纂に向けて

昭和三十二年以来、調査を重ねてきた民俗調査の結果を集成して、後世に引き継ぐとともに、北上山地民俗資料館の民俗学的母体文献となるようにと、村文化財調査委員（芳門留次郎

委員長他五委員)の方々が、日夜、精力的に資料調査や筆耕活動を続けています。

#### 編集予定項目

自然と風土／村落組織／家族と親族／衣・食・住／生業／交通・運搬・通信／交易／社会生活／信仰／民俗知識／民俗芸能／競技・娯楽／人の一生／年中行事／石造文化財／民話／北上山地の方言／川井村の地名／各地域の民俗資料等

委員の方々が資料収集等で巡回の際は、みなさんのご協力を宜しくお願いいたします。

## 民俗資料館

### 臨時休館のお知らせ

(図書館もお休みします)

がいちゅうとう くじよ  
害虫等の駆除のため

みつぺいくんじょう  
密閉薫蒸を行います

期間 平成9年12月5日(金)～8日(月)  
(4日間)

## 川井村北上山地民俗資料館入館者状況

9月30日現在

	個人				団体				公用	合計	備考
	一般	学生	児童	免除	一般	学生	児童	免除			
6年度計	591	23	98	2,097	100	0	69	295	87	3,360	11月～3月
7年度計	1,970	55	265	75	1,257	0	34	269	130	4,055	
8年度計	1,188	23	230	60	791	30	12	144	0	2,478	
9年度計	561	16	64	0	487	0	0	352	26	1,506	9月まで
合計	4,310	117	657	2,232	2,635	30	115	1,060	243	11,399	

# 創建600年 「大圓寺宝物展」

大圓寺創建600年を期に寺の宝物である  
県指定文化財等の貴重な資料をお借りし  
て展示します。

入館料 無料

1日～3日

(文化祭開催期間中のみ無料)

期間 平成9年

11月1日(土)～24日(月)

会場 川井村

北上山地民俗資料館

企画展示室



区分	資料名	所蔵者	備考
袈裟	雲龍文透地縞九条袈裟	大圓寺	一肩(県指定文化財)
仏像	春日作唐木薬師如来座像	〃	月泉懷佛
〃	文殊菩薩座像(宝永3年)	〃	本尊脇侍
〃	普賢菩薩座像(宝永3年)	〃	〃(寛政6年火災の焼痕有)
寺宝	龍の髭仏子	〃	柄36.4cm、毛33.5cm
〃	仏覚古心禅師月泉印大和尚行状	〃	巾29.0cm、長275.0cm
掛け軸	白山権現	〃	巾28.0cm、長92.5cm
工芸品	大圓寺花鳥画板襖	〃	16枚
〃	月泉禅師立像	〃	(小国堰開削)
写真	見立石		(寺宝)
〃	正法寺		大圓寺の本寺
〃	鶏頭山		大圓寺の山号の由来
〃	大圓寺全景		
〃	テッタイの岩屋		(薬師川)
〃	開慶水		(大圓寺境内)
〃	大圓寺旧跡寺平		(桐内)
〃	寺屋敷		(湯沢)
〃	「伝」月泉の山居跡		(道又)
〃	「伝」月泉行水の滝		(道又)
〃	小国堰		(関根)
〃	大圓寺本尊		(釈迦如来座像)
地図	大圓寺旧跡案内図		

資料名 しょい台 (背負い台)  
 旧所有者 佐々木善次郎  
 (1924(大正13年)年生)  
 製作者 佐々木 彦 藏  
 (善次郎氏の弟)  
 製作地 川井村箱石の自宅  
 製作年代 1955 (昭和30)年頃  
 材 料 本体の材…不明  
 ロープ…購入  
 背当ての部分…マダ皮  
 使用地 山の草刈り場 (刈り場) と  
 自宅の間…1時間程の道程  
 使用年代 1955 (昭和30)年頃  
 ~1985 (昭和60)年頃まで  
 使用者 佐々木善次郎  
 佐々木マサエ

使用方法 おおよそひと抱えに束ねた草を6シマほど地面に重ね、それに《しょい台》をくっつけロープで縛る。そのロープは現在失われているが、下の横棒の所から上の横棒の所まで届くように、左右に1本ずつ計2本ついていた。現在、上の横棒についているロープは、6把縛った上に更に草を積み重ねる時のもの。背負う時は、中の横棒の所のロープを首に通し、下の横棒の所についている2本のロープをそれに絡げて胸の前で結んだ。

備 考 草はカヤ、クズなどの雑草で、9月末頃に刈り取り、立てておく。  
 刈ってきた草は冬の間に牛の餌とした。冬中《はせ》場に積んでおき、必要な分を押し切りで切って牛に与えた。春、夏は牛馬 (当地では牛の方が多い) は山の放牧地に放してある。  
 《しょい台》は男女とも使用したが、子供用は小さい。マサエ (善次郎氏の妻) さんは6年生くらいから手伝ったが、《しょい台》は20歳くらいから使うようになった。  
 男は5~6シマ、女は4シマほどを1回に背負うのが標準だった。

しょい台 (背負い台)

鈴木卓也

夏のあいだ山の放牧地に放しておいた牛馬は、冬には山から降ろして家で飼ったそうです。冬のあいだに牛馬が食べる餌も、やはり山から運び降ろしたそうですが、その際に餌となる草を一度に大量に背負うために、この《しょい台》が使われました。

かつては、十月頃になると家中総出でこの作業に当たったそうで、《しょい台》も働き手の数だけ用意されたということです。  
 この資料は、佐々木彦藏 (善次郎氏の弟) ささんが手伝いに来た際に、《しょい台》の数が足りなかったので自分用に製作したものだそうです。普通、背に当たる部分にはロープを巻き付けますが、これはマダ皮を組んだ特別製で、他のものと使い比べると非常に使い良いものだった

たそうです。マサエ (善次郎氏の妻) さんは「家にあつた《しょい台》の中でも一番出来の良かったものだ」ともおっしゃっていました。  
 実用的なものにも愛着の心を持って接してきた人々の温かみが、《しょい台》を通して感じられるように思います。

☆佐々木マサエ (善次郎氏の妻) さんからお話を伺いました。  
 (元岩手大学学生)

作図者 鈴木卓也

